

調査方法及び回収状況

1. 調査概要

(1) 目的

本学受験を一定考慮する主として聴覚障害を有する高校生(予備校生を含む)、進路指導教員および父母を対象に、本学の「障がい学生支援制度」を援用し、志望する学部・学科の基礎・教養科目の講義保障を体験してもらう。この体験の有無による進学意欲や大学進学への促進に関する影響・効果を、体験者へのヒアリングや調査対象校に対して同時に実施するアンケート調査(基本アンケート)を通じ、客観的に分析・評価する。

(2) 対象

近畿2府4県の本学への入学試験合格実績を加味した高等学校304校を始め、予備校、特別支援学校(聾学校が中心)の計335校。

(3) 調査方法

郵便配布による調査

(なお、依頼状に加えて、障がい学生の大学進学に関する基本アンケート、同志社大学における講義保障体験(授業体験)の申し出について(ご案内)、DVD「Do! CARE」(本学障がい学生支援制度の1年を映像化)、本学「障がい学生支援制度(案内パンフレット)」を同封した。)

(4) 調査期日

2008年12月現在

2. 回収状況

区分	対象校数	回収校数	回収率(%)
一般高校	304	112	36.8
予備校	11(20)	3	27.3
特別支援学校	11	8	72.7
計	326(335)	123	37.7

*一予備校より学校別(計10校)でなく本部から一括して回答があった。従って、上記表中の予備校欄は調査依頼20校に対し、対象校数11校として扱い、当該予備校は1校より回答とカウントした。